

## 『かわはく』での活動 — 特別展示の企画 —

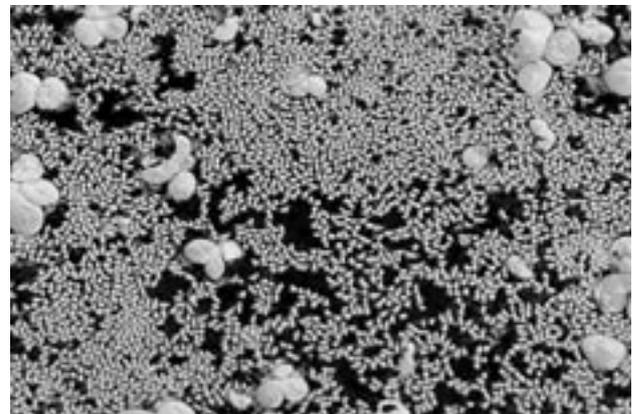
植 田 雅 浩

環境担当は、自然の博物館の職員ですが埼玉県立川の博物館（寄居町）に駐在し、川の博物館を運営する指定管理者が計画した事業の支援や収蔵庫内の資料管理などを日常的に行っています。もうひとつの重要な業務が特別展示の企画立案です。特別展は川の博物館が開催しますが、その企画を環境担当が行います。環境担当には自然系と人文系の学芸職員が配置され、人文分野中心の展示と自然分野中心の展示を交互に企画します。今年度の特別展は、「埼玉圏の原始・古代人—人の動きをモノから探る—」と題し、旧石器時代～奈良・平安時代にかけて運ばれてきたモノをとおして埼玉県内に暮らした人々の生活を探る展示でした。これは昨年度に企画立案し、2年をかけて開催されました。

葉とは何か、葉の役割、葉に注目した植物の進化を取り上げます。次のコーナーでは植物標本を中心に「さまざまなデザインの葉」を紹介し、第3のコーナーでは「利用される葉」として葉と昆虫の関わりや、人のくらしの中での利用例を紹介し、最後のコーナーは「植物と環境」です。二酸化炭素の利用など植物が環境に与える影響をパネルで紹介し、また、展示室前のリバーホールには「大きな葉、小さな葉」と題して生きている植物も展示します。最大で直径2mを超す巨大な葉をつけ、埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例指定種のオニバスや世界最小の種子植物といわれ、長径でも1mmに満たないミジンコウキクサなどを展示する予定です。



特別展「埼玉圏の原始・古代人  
—人の動きをモノから探る—」



ヒメウキクサ（大）とミジンコウキクサ（小）

現在は、平成22年9月から11月にかけて開催予定の特別展「葉っぱの世界」（仮称）の企画を練っています。企画立案が任せられているとはいえ、展示を実施するのは川の博物館ですから、展示担当者との十分な意見交換を行いながらより良い展示にすべく準備しています。この展示は館有資料を中心に様々な角度から「葉っぱの世界」を紹介します。展示構成は大きく4つのコーナーに分かれます。まず、導入は「植物にとっての葉」として、

さて、県立の博物館施設はそれぞれ役割を分担していますが川の博物館は、その使命に「自然及び川と人々の暮らしのかかわりに関する資料の収集・保管及び調査研究を行うとともに、その活用を図り、もって教育、学術及び文化の発展に寄与する博物館」とあります。これを踏まえ、来年度の特別展は、当館の企画展示とは一味違った展示にしたいと考えています。

（うえだ まさひろ 担当課長）